

茨城Ai研究会の立場から

茨城県内のAi(Autopsy imaging)の現状と当研究会の活動報告

令和6年度 茨城県死因究明等推進協議会

茨城Ai研究会 代表世話人
筑波メディカルセンター病院 放射線技術科
田代 和也

茨城Ai研究会とは



当研究会のホームページ

情報共有

意見交流

茨城Ai研究会

検査の統一化

インナービジョン 2018年12月号 p.51-55



高精度の死因究明に向けた定量化技術の最新動向
オートプシー・イメージング(Ai) 第八弾

IV 地域医療におけるAiの最新動向

4. アンケート結果から見る 茨城県におけるAiの現状と展望

田代 和也*1,10 / 小林 智哉*1,10 / 安達 義輝*2,10 / 飯泉 均*3,10
小沼 徹哉*4,10 / 櫻井 常男*5,10 / 椎名 文哉*6,10 / 染谷 聡香*1,10
高野 秀喜*7,10 / 田所 俊介*8,10 / 藤田 法久*9,10

*1 茨城メディカルセンター病院放射線技術科 *2 茨城県西部メディカルセンター放射線科
*3 東京医科大学茨城医療センター放射線科 *4 小山記念病院画像検査科 *5 土浦協同病院放射線科
*6 ひたちなか総合病院放射線技術科 *7 水戸清生会病院放射線技術科 *8 日立総合病院放射線技術科
*9 鹿ヶ崎清生会病院放射線技術科 *10 茨城Ai研究会

近年の死因究明におけるオートプシー・イメージング(以下、Ai)の重要性が増している中、費用拠出など解決すべき問題はまだまだ多い。そこで、茨城県内におけるAiの施行状況を調査した。なお、2016年の新潟県での調査¹⁾と内容を比較するため、アンケートの設問はそれを参考に作成した。

対象と方法

『月刊新医療』(2015年10月号)に掲載された、2015年8月現在CTを保有している茨城県内全21施設²⁾を対象として、以下のいずれかの方法で調査を行った。

- ① 茨城Ai研究会の世話人の知人が在籍する施設
- a) 茨城Ai研究会のホームページ上のWebアンケートに回答
- ② 茨城Ai研究会の世話人の知人が在籍しない施設は、電話でAiの経験の有無を確認の上、
- b) Aiの経験がある施設には調査票(図1)を送付し、回答後返送
- c) Aiの経験がない施設には、電話で確認し、終了

なお、Webアンケートと調査票の設問内容は同じである。

回答期間は2018年7月1日～9月30日の3か月間とした。

調査時には、茨城県内に1台のみ専用CT装置があった。

結果

統合または閉業した3施設を除いた218施設のうち、217施設(99.5%)から回答を得た。そのうち、33.6%に当たる73施設でAiの経験があり、そのアン

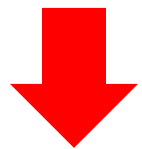
ケートの回答者は、診療放射線技師68、放射線科医2、その他の医師3、事務職1、その他(助手)1であった(複数回答可)。回答結果を図2～22に示す。

自由意見として、「昨今、解剖を希望されないご家族が多いため、Aiを行うことで死因究明に大きな役割を担っている」と考える。「Aiについて読影補助講習会を行ってほしい」「Ai撮影料金の相場がわからない」「Ai認定診療放射線技師の必要性について、もっとアピールしてほしい」「画像だけの診断には限界を感じており、医師でもAi画像は見慣れていないので、診療放射線技師の読影補助が重要だと感じている」「医師が死因を究明するために必要と考え、指示を出す以上、Aiも診療放射線技師の仕事だと思っている」「警察や各施設・部署でAiについての考えはさまざまであり、茨城県全体で一歩化できると体制が整えやすいと思う」との意見があった。

考察

2016年の新潟県での調査は、対象が診療所・検診施設などを除く新潟県診療放射線技師会員が所属する100施設であり、茨城県での調査と対象が異なるため単純な比較はできないが、回答結果はどの設問においても新潟県と同様の傾向があった。

- 調査期間は2018/7/1～9/30（3か月間）
- 茨城県内のCTを保有する全218施設に対してアンケート実施し、217施設から回答を得た（回答率**99.5%**）。

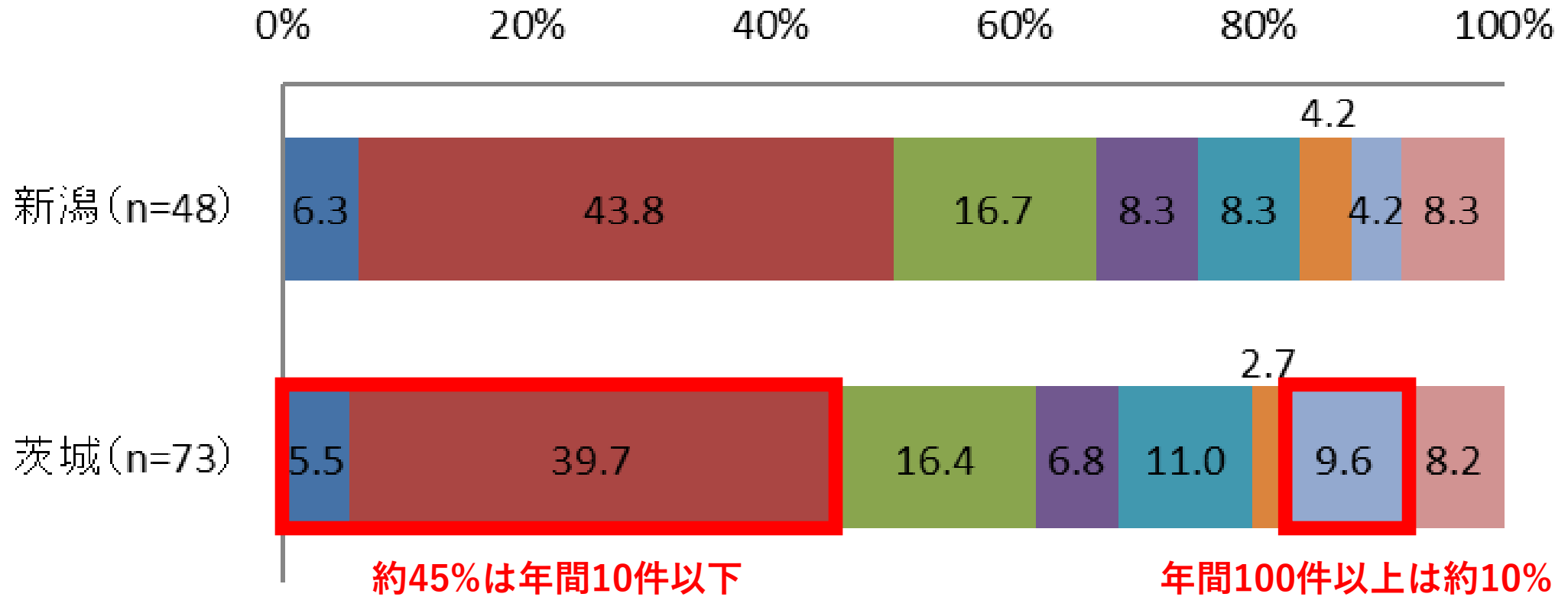


73施設（**33.6%**）でAiの経験あり

アンケートの回答者

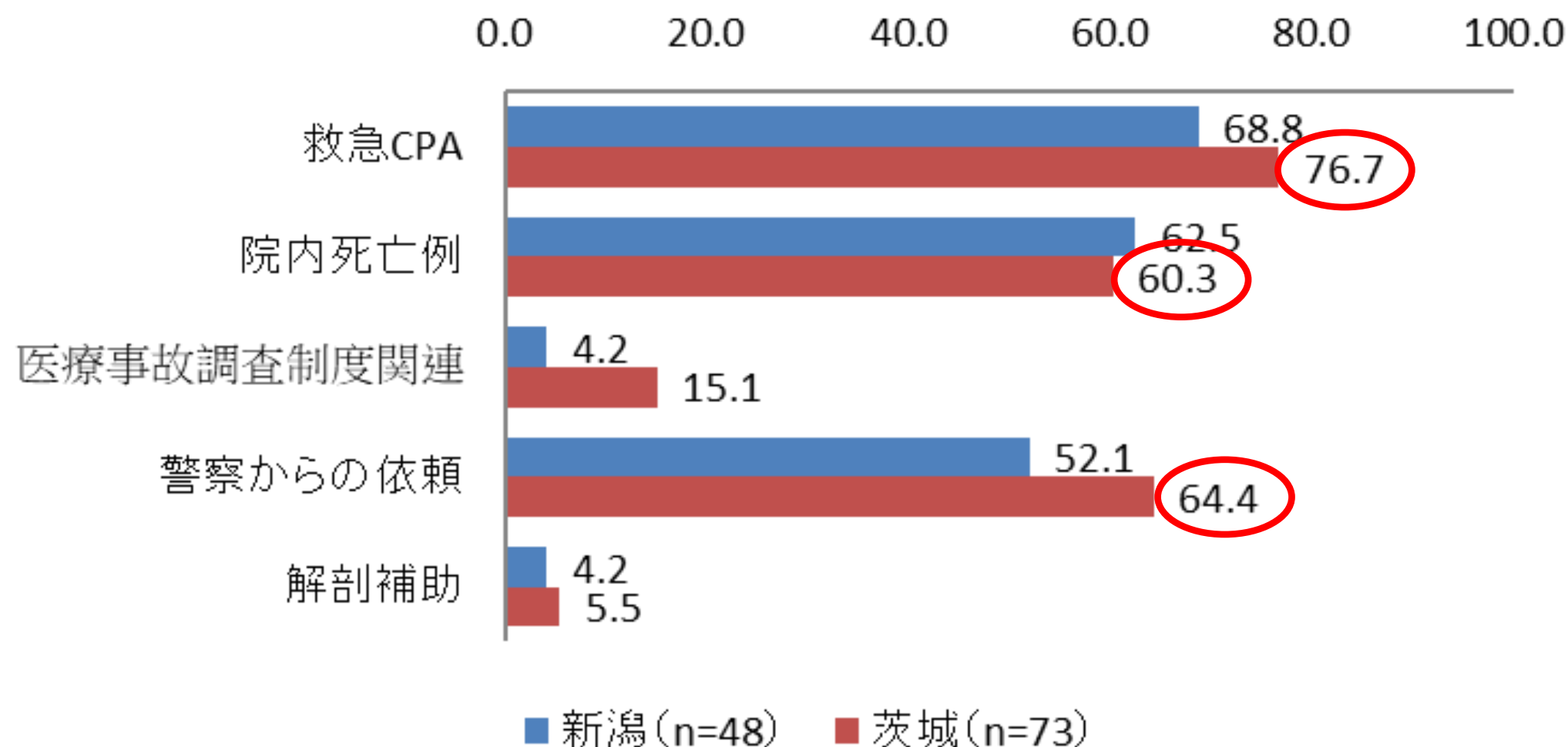
診療放射線技師	68
放射線科医	2
その他の医師	3
事務職	1
その他（助手）	1

Ai経験あり施設の年間件数

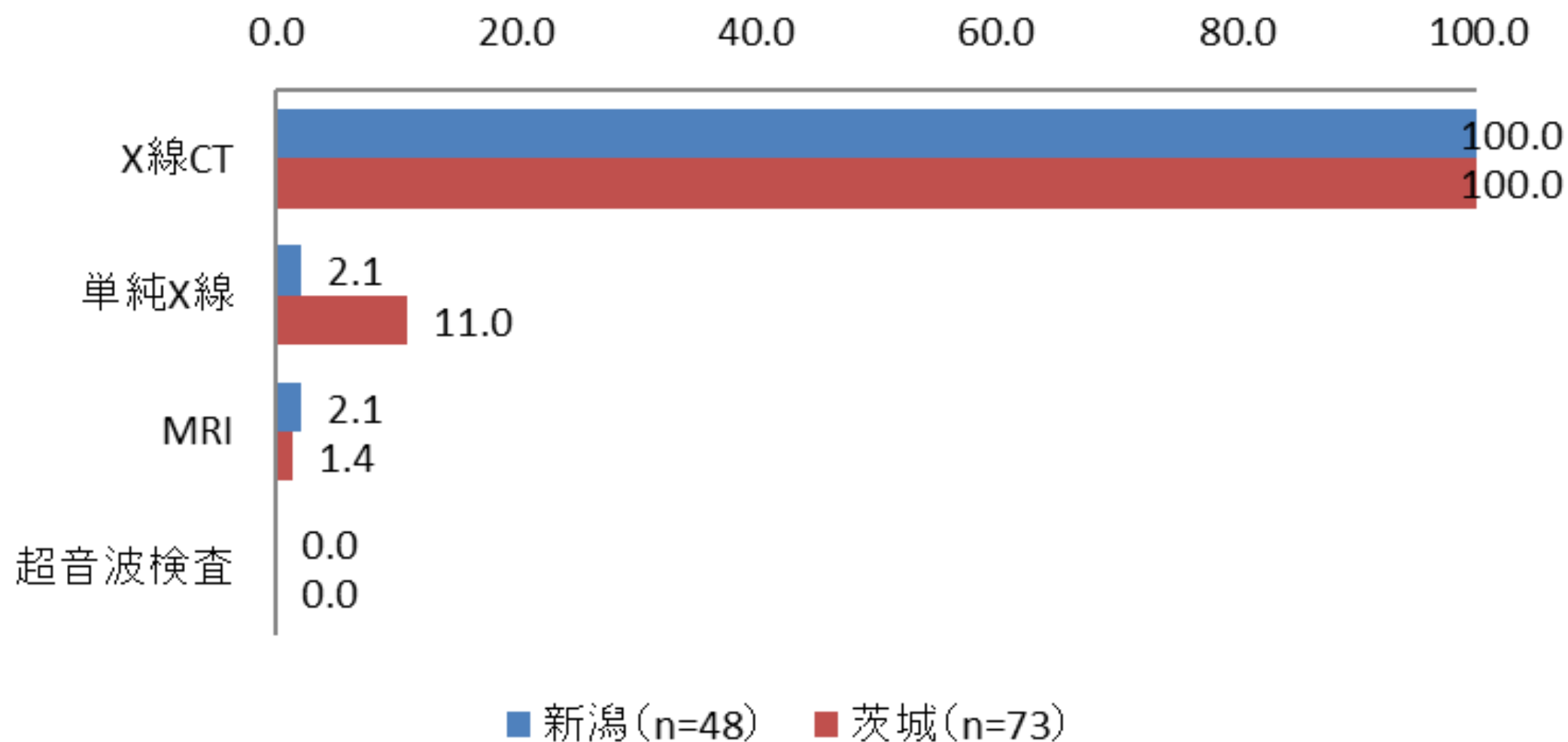


■ 1未満 ■ 1~10 ■ 11~20 ■ 21~30
■ 31~50 ■ 51~99 ■ 100以上 ■ 記載なし

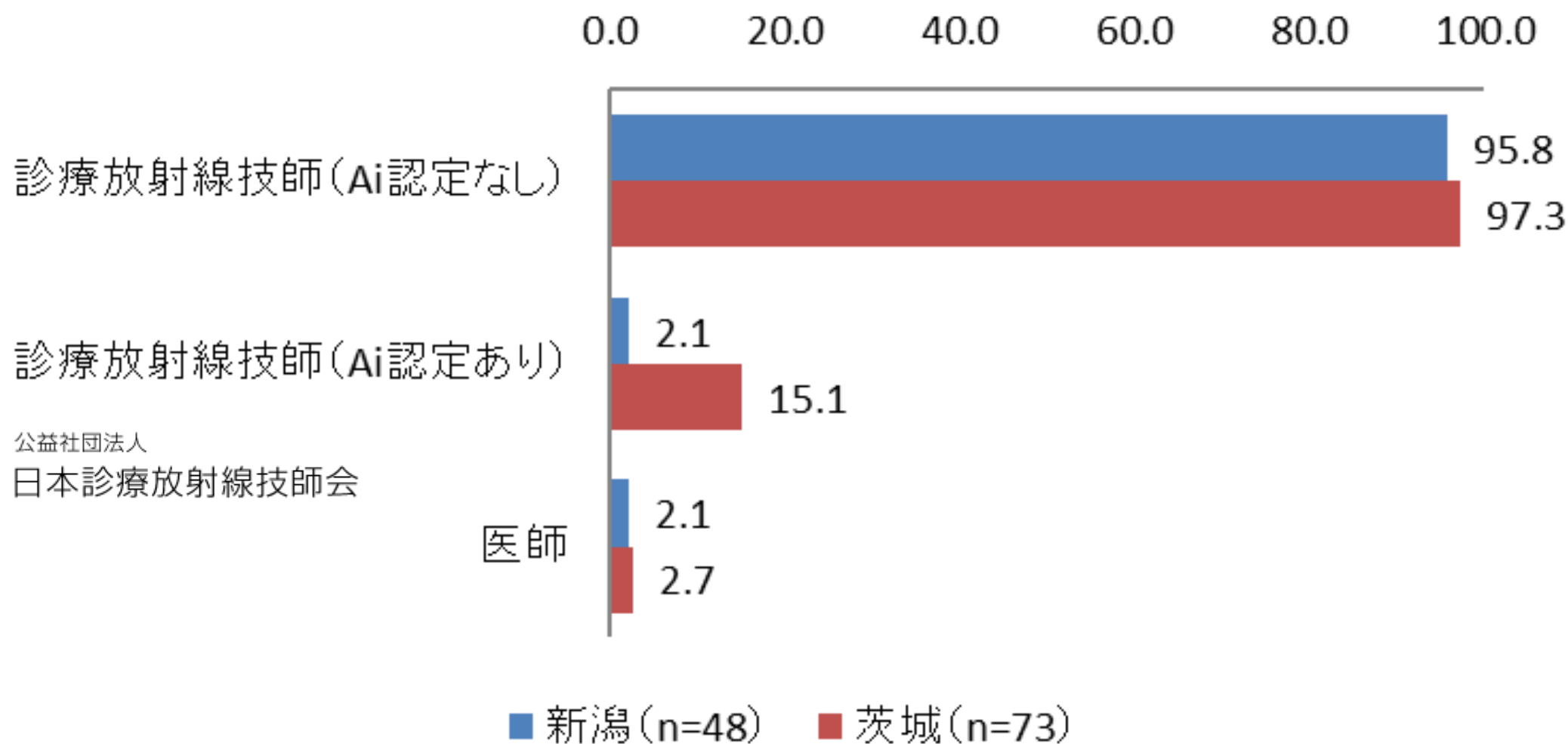
検査をする場合(複数回答)



モダリティ(複数回答)



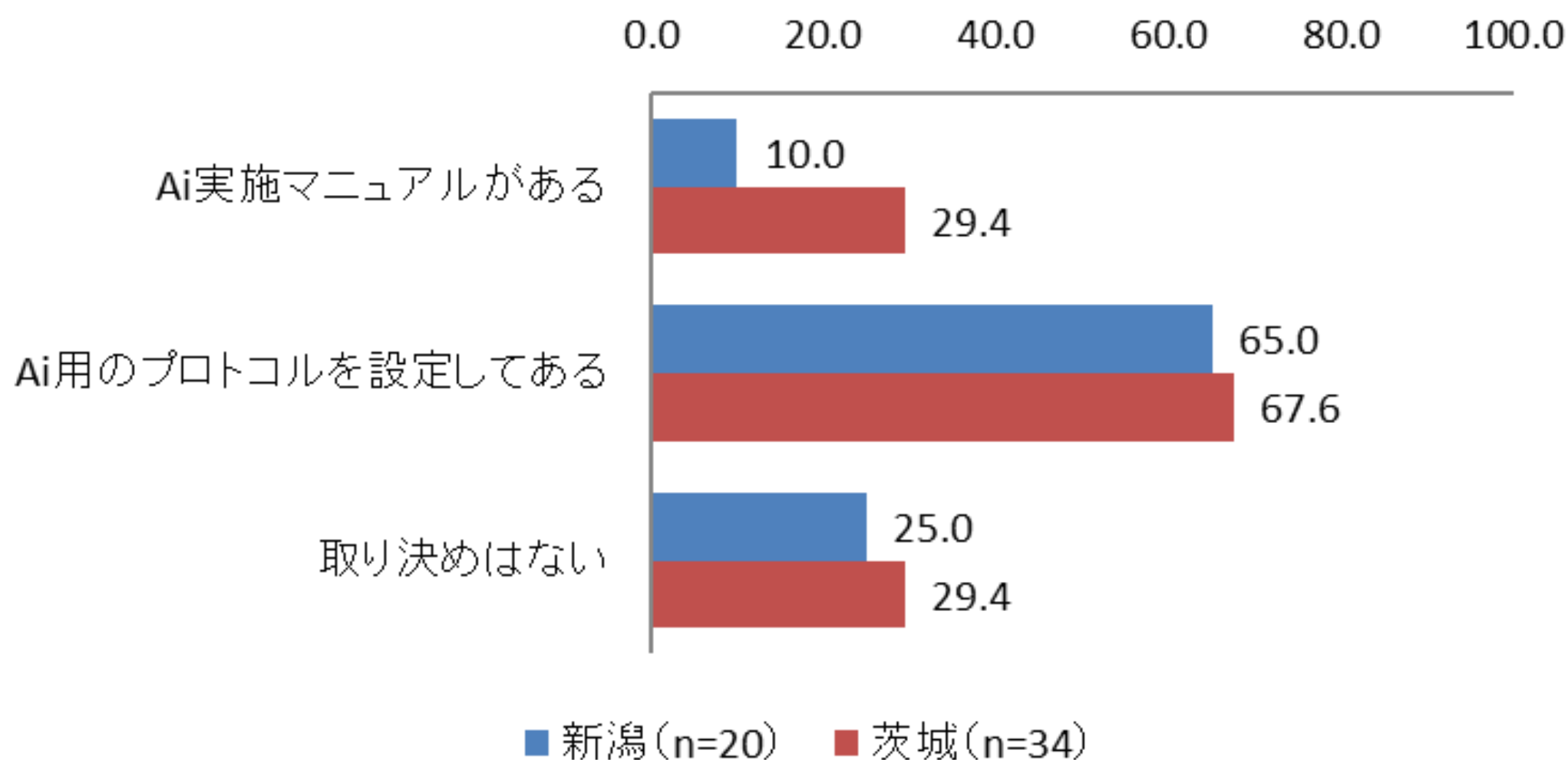
撮影者(複数回答)



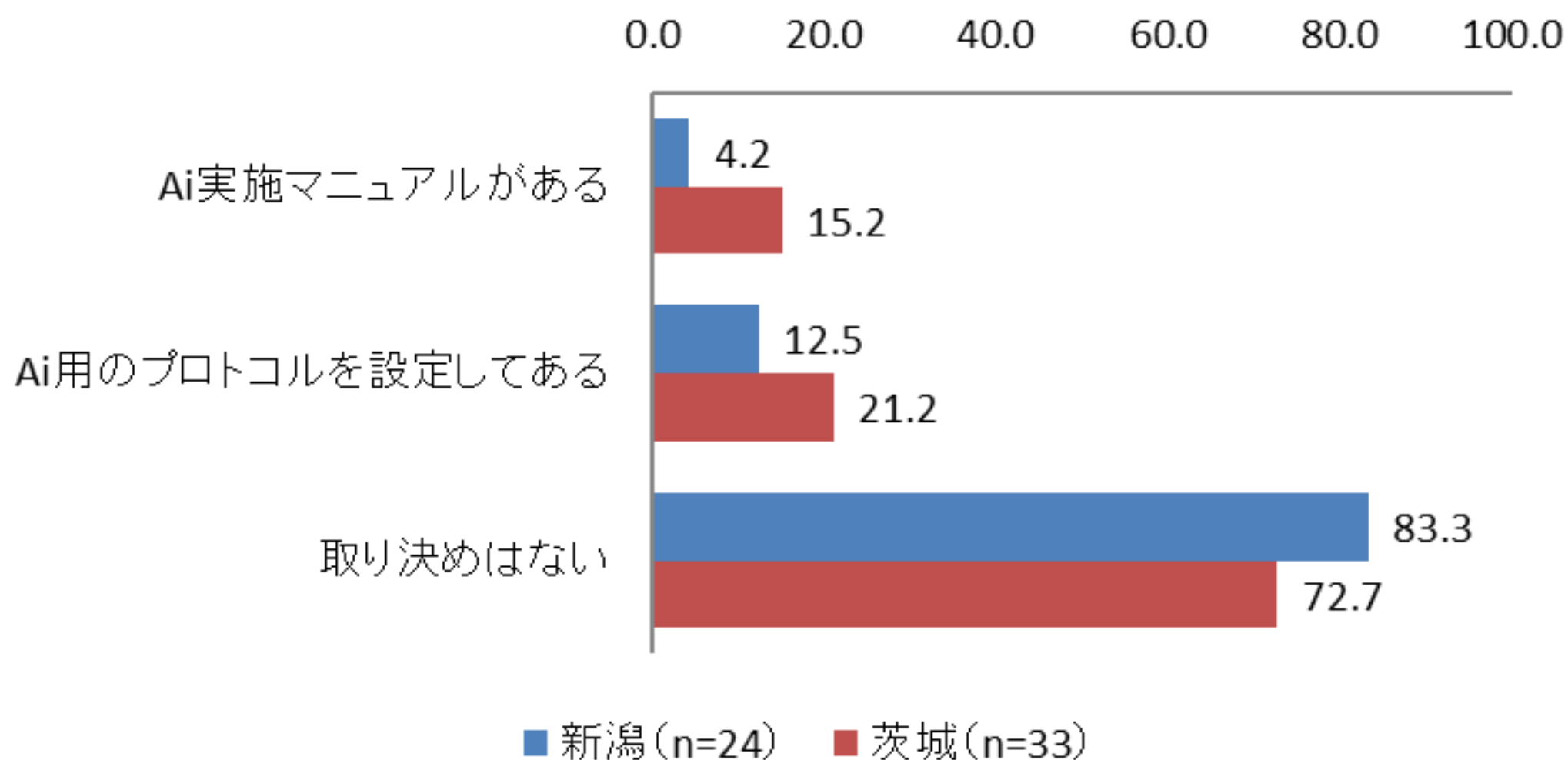
公益社団法人

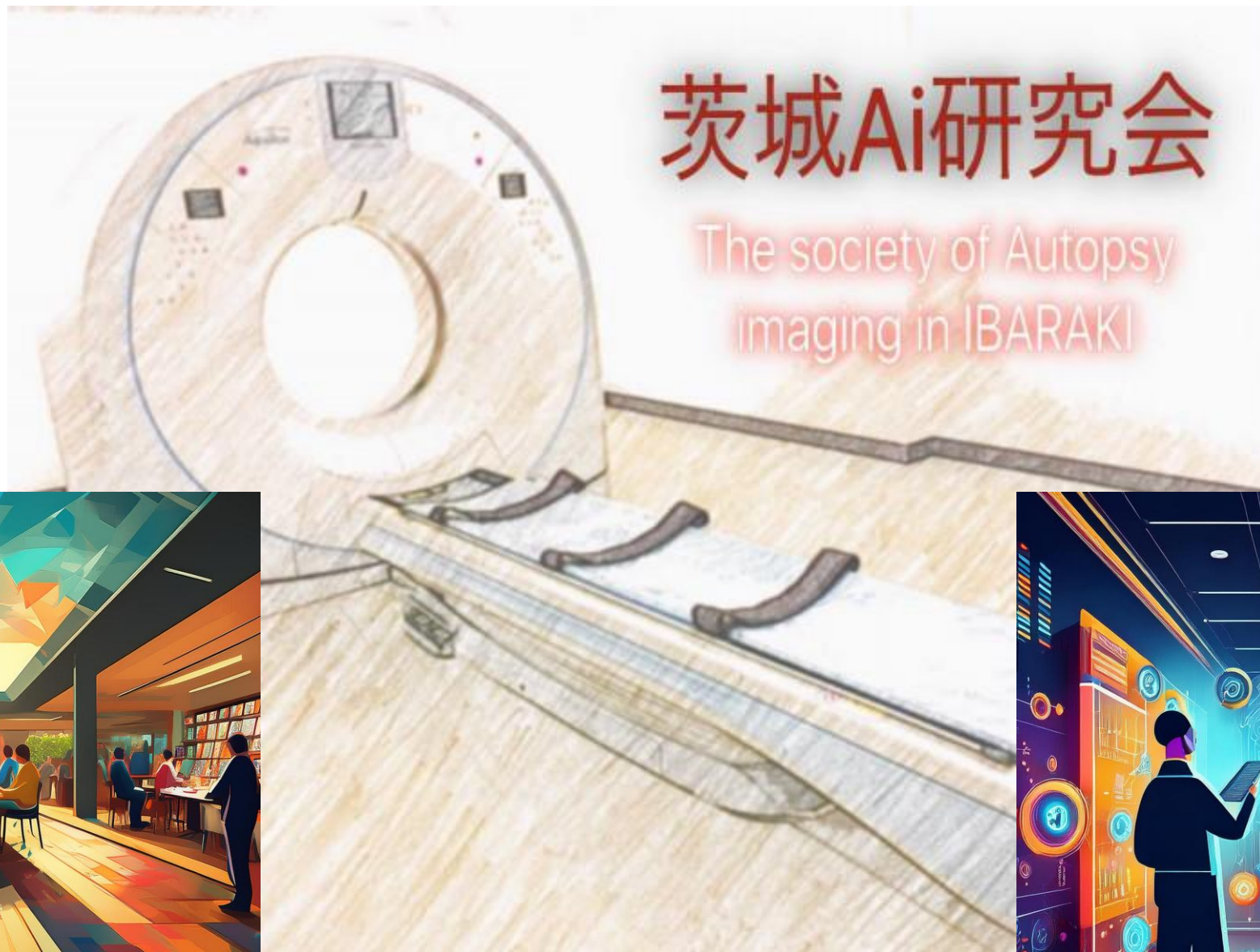
日本診療放射線技師会

Aiに関する取り決め（年間件数11件以上）



Aiに関する取り決め（年間件数10件以下）





情報共有の場



検査の統一化



茨城Ai研究会

後援

茨城県 茨城県医師会 茨城県診療放射線技師会 日本放射線技術学会関東支部

症例検討

①現場状況(警察検視官室)

②Ai撮影(診療放射線技師)

③Ai読影(放射線科医)

④解剖(法医学医)

各施設の運用方法紹介



外部講師の先生方

- 救急医
- 警察医
- 法医学医
- 小児科医
- 弁護士
- 警察検視官室
- 大学教員
- 法医学教室で働く放射線技師 etc...



代表世話人

田代 和也

(公益財団法人筑波メディカルセンター病院)

副代表世話人

染谷 聡香

(軽部病院 / 一般財団法人 Ai情報センター)

世話人

櫻井 常男

(茨城西南医療センター病院)

飯泉 均

(東京医大茨城医療センター)

藤田 法久

(龍ヶ崎済生会病院)

田所 俊介

(日立総合病院)

岸本 和久

(ひたちなか総合病院)

小沼 徹哉

(小山記念病院)

高野 秀喜

(水戸済生会総合病院)

小森 慶太

(茨城県立こども病院)

菅野 千紘

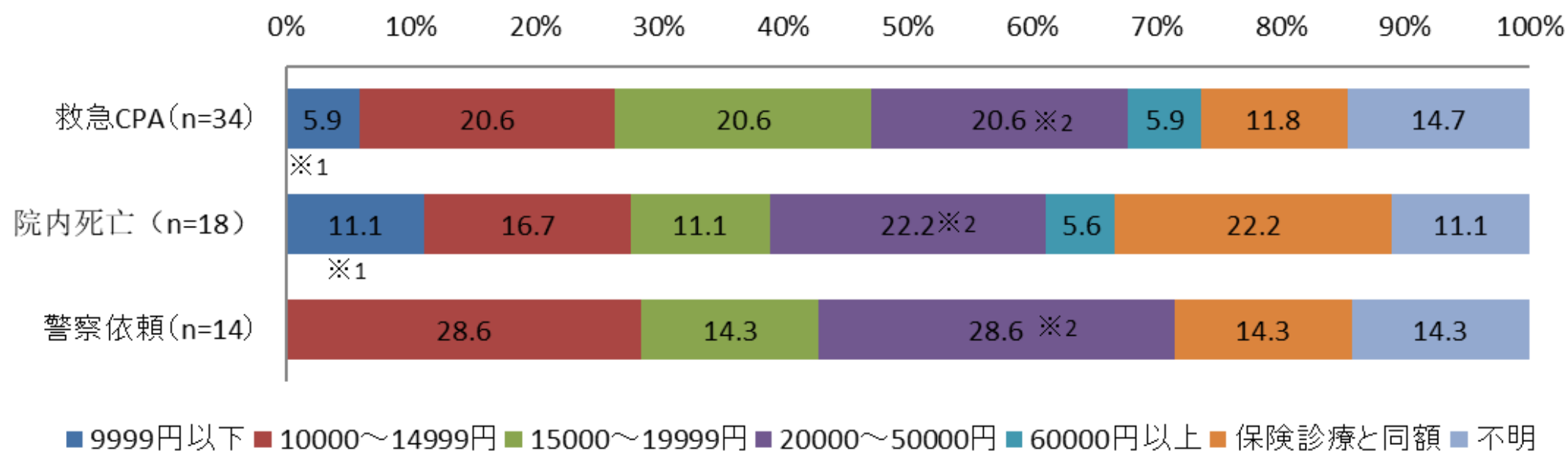
(土浦協同病院)

斎藤 創

(公益財団法人筑波メディカルセンター病院)

さいごに

遺族負担の金額



※1 1施設は基本料金9000円、患者初回に限り4500円加算

※2 1施設は時間帯による金額設定(30000～50000円)